

青少年の家の利用者120万人突破 開所38年目に迎えた記念日

青少年の家に紙吹雪が舞ったのは11月29日。同日、県立陸中海岸青少年の家（菊地啓子所長）は利用者120万人達成記念セレモニーを行いました。1977年8月に開所した同施設の節目の利用者となったのは、釜石市のボーイスカウト釜石第2団（奥田耕一団委員長）カブ隊のメンバー11人。同隊の児童と県スポーツ振興事業団の橋本良隆理事長、菊地所長がくす球を割り、開所38年目の記念日を祝いました。その後、記念品が手渡され、受け取った団員らは笑みを浮かべていました。



香取市の支援団体がお振る舞い 甘いふかし芋にホクホク顔

出来立てのふかし芋はいかがですか——。11月21日、浦の浜仮設住宅において千葉県香取市の有志による支援活動が行われました。これは、本町と千葉県山田町（現香取市）が姉妹都市だったことから、震災後行われているもので、この日は住民にふかし芋や甘酒が振る舞われたほか根菜などを配付。支援を行った林勝子さん（同市商工会女性部代表）は、「被災された皆さんに温かいものを食べさせたかったのがきっかけ。1日も早い復興を願い、今後も続けていきます」と話してくれました。

町民バドミントン大会を開催 ペア21組が熱戦繰り広げる

11月22日、B & G海洋センター体育館において町民バドミントン大会が催されました。これは、経験者問わず町民に広くバドミントンに親んでもらおうと毎年開催されているもので、今回は試合形式をダブルスとしペア21組（男性7組、女性14組）が出場。経験者・未経験者入り乱れての予選リーグでは、時に激しく、時に笑いありと起伏のある試合展開となりました。その後に行われた決勝トーナメントでは、強者同士の手に汗握る熱戦が繰り広げられ、応援する観衆を沸かせていました。



山田町ジオツーリズム講演会 伊勢志摩の名物女将が提言

12月1日、町中央公民館において山田町ジオツーリズム講演会が開催されました。この日の講師は、三重県鳥羽市で旅館の女将を務める江崎貴久さん。旅館経営の傍らエコツアー企画会社を立ち上げ、観光資源の発掘を行う名物女将として知られています。講演の中で江崎さんは、「地域の魅力を伝えるには、“らしさ”と“ならでは”が必要。地域の素材が光る仕掛けを作り出すことが大切だ」と提言。自身の経験などを交えながらの説明に、参加者らは興味深く聴き入っていました。



町のわだい

今月の題字 田代 さくらさん（船越小4年）



冬の恒例・やまだの鮭まつり 趣向凝らした催し楽しむ

山田魚市場特設会場において11月29日、やまだの鮭まつりが開催されました。これは、本町の名産品であるサケを広く知ってもらおうと毎年開催されているもので、冬の到来を告げる名物イベント。今回はサケの不漁によりつかみ取りが中止となりましたが、新鮮なサケを目当てに約3,000人が来場しました。会場では、塩鮭や新巻鮭などの販売コーナー、食事を提供する出店のほか、たくさんのロープのうち1本を引っ張って景品を当てる「千本釣り大会」を実施。大当たりを狙う参加者の一喜一憂する姿に、周囲は笑いであふれていました。

豊間根川橋ボルト締結式開催 小さな手でつなぐ大きな橋

11月19日、(仮称) 豊間根川橋（延長95^m）でボルト締結式が開催されました。これは、「山田宮古道路」（延長14^{km}）としては最初の橋梁工事となる同橋の上部工がつながることを記念して行われたものです。この日は、地域住民や工事関係者ら約30人が出席。参加者らは高さ約16^mの橋上部に登り、金色のボルトを締め付けました。豊間根小学校（甲谷清隆^{きよたか}校長）から参加した長谷川光^{こう}君（2年）と鈴木斐登^{あやと}君（4年）は、橋を自分達の手でつなげるという体験を満面の笑みで楽しんでいました。

